

「土砂災害防止について」

広島県 熊野町立熊野第一小学校 5年 ^{みずば}水場 ^{あきと}章翔

ぼくの住んでいる町は平成30年7月豪雨「西日本豪雨」の被害にあった広島県の熊野町です。

その時、ぼくは3さいでした。ぼくの家は山に近くて、そこで土石流が起きて大きな岩やどろ水が流れて道をふさいでいるのを見ました。町内で亡くなられた方がいるのも、ニュースで見てこわかったのを覚えています。あの日、雨の音がすごくて町内放送も聞こえないくらいで雨が初めてこわいと思いました。でも、ぼくの家族はひなんしませんでした。ひなんしなかった理由は大雨特別警報が出た時には、もう車でひなんも歩いてひなんも、ぼくも小さかったし妹も小さかったのでひなんは無理だと思ったそうです。

小学生になって、ぼくの通っている小学校では、災害について勉強をする時間があります。熊野町では豪雨災害をわすれないために、小学1年生からマイタイムラインという大雨が来た時・急な豪雨が来た時・地しんが起こった時、自分がどういう行動をすればいいか、他の家族がどういう行動をすればいいか考える用紙を書きます。他には土砂災害の種類を学んだり土砂災害が来る前のポイントなどを学びます。子どもが学ぶだけではなくて、参観日に災害のじゅ業をしたり学習発表会で災害についての発表をして、ほご者の人にも災害について知ってもらう機会もあります。そして、ほご者の人も参加して、災害が起こった時学校にむかえにきてもらっていっしょに帰る「引きわたし訓練」という訓練もします。

家でも家族で災害について話します。西日本豪雨の時に仕事に行っていたお父さんの車のドライブレコーダーを見せてもらったり、ユーチューブで動画を見たりしました。お母さんは、豪雨災害から防災バックを準備するようになりました。

また山登りをして熊野町以外の場所の砂防ダムや池を間近で見に行ったりもしました。山に行くと、いろんな場所に砂防ダムがあることに気づいたし、間近で見ると大きくて土石流が通ったと思うとすごくこわいと思いました。

土砂災害のひがいをへらすためには、土砂災害についての知識を知ることとほご者の人にも知識を伝えて、行動してひなんできるようにすることだと思います。家族でハザードマップを見て、どこにひなんするか、どの道が安全か、何を持って行くか、話しておくことで、あせらずにひなんすることができると思います。